

「森銑三刈谷の会」だより 54 (2026/7/18)

発行 2026/7/18 (月刊・メールでの投稿歓迎)

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会

例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu_s@katch.ne.jp

表「森銑三「今一人の江戸川乱歩」辻村義介はいなかった」資料一覧

No.	出典	「江戸川乱歩」言説	記事
1	森銑三(1963)「今一人の江戸川乱歩」乙骨書店(1963/6)『ももんが』『森銑三著作集』(1974)12:495-505,中央公論社)	「辻村君を私は、目白臺のD塾[大道義塾]で知った。当時早稲田大学の学生で在籍していた萩原恭平君が、江戸川乱歩といふニックネームを奉った」(森,1963)	「辻村義介」江戸川乱歩説;c.1919藤村義助[0]
2	藤村義助(1920)「鐘樓の悪魔」大道社(1920/3)『帝国民』3(3)70-77	「辻村義介」でなく藤村義助(c.1898-?)<藤村義助:東京外国語学校 編『東京外国語学校一覧』従大正8年至9年;森(1963)誤記推定>	藤村義介[ママ]訳(1933)『伊太利紀行』春陽堂?
3	森林太郎(1972)「十三時」『鷗外全集』10:621(初出『趣味』(1912/10)「(Poe)鷗外訳」<「鐘樓の悪魔」同話>	なし	Poe "The Devil in the Belfry" (1839)
4a	大岡昇平(1978)「江戸川乱歩の詩」日本推理作家協会(1978/7-8)『日本推理作家協会会報』385	江戸川乱歩「アインシュタインの頌」エポック社(1922/11)『エポック』;江戸川乱歩「間島[かんとう]方面の宣伝戦一斑」『高原』(1921/11)『エポック』前身]	1921, 22例;『エポック』編集者野川孟(1895-?) [1]
4	中島河太郎(1978)「解題」江戸川乱歩『江戸川乱歩全集』1:310-19,講談社	「もう一人江戸川乱歩がいたことを森銑三氏が紹介された。[略]大岡昇平氏を通じ、この乱歩より二年ほど前[1921, 22]からまったく同じ筆名で」(p.312)	森(1974)引用
5	都筑道夫(1979)「乱歩先生と乱歩氏と亜蘭芳」江戸川乱歩『江戸川乱歩全集』244(青銅の魔人):264-67,講談社	「(江戸川乱歩(平井),辻村義介,亜蘭芳の)三人もいたというのは、実に興味深い」(p.266)	平井,辻村義介,亜蘭芳
6	江戸川乱歩(1979)「探偵小説四十年(上)」江戸川乱歩『江戸川乱歩全集』20:27,講談社	「江戸川藍峯とは無縁私のことで、そのころボーの名をもじってつけた号」「あれ(「二銭銅貨」「一枚の切符)を書いて送るときに、乱歩と決めたのである」(p.27)	江戸川藍峯(c.1920)>江戸川乱歩(1922)[2]
7	都筑道夫(1989)「怪談から落語まで」森銑三『森銑三著作集』12<愛蔵版>「月報」12:1-2,中央公論社	「この著作集第十二巻に載っている「今一人の江戸川乱歩」を思い出した。大岡氏の原稿を見ると、そこに登場する謎の乱歩は、いよいよ辻村義介というひと	森(1974)引用
8	鮎川哲也(1989)「「続・幻の探偵作家を求めて」舌代」光文社(1989/5)『EQ』69 (鮎川,2020,2:13再掲)	「私が探しつづけている究極の標的は江戸川乱歩氏！ 森銑三氏の随筆「今一人の江戸川乱歩」によればボーの詩を試訳したこともある[ママ]」(鮎川,2020,2:13)	森(1974)引用
9	岩田準子(2015)「江戸川乱歩トリビア7 先にいた? “無名の乱歩”」『中日新聞』(2015/11/21:18)	「森銑三の随筆「今一人の江戸川乱歩」(森銑三著作集12より)によると、大正期、森が通っていた東京・目白台の大道義塾で辻村義介という青年も学んでいた」	森(1974)引用

54 : 2026/6/20(土)「森銑三「今一人の江戸川乱歩」辻村義介はいなかった」(参加 12 人)

鈴木 哲

「江戸川乱歩」言説 10 点を読んだ(表)。森(1963)<辻村義介>は藤村義助の記憶違いというのが結論である。大岡・中島ら推理小説界の誤解は藤村(1920)を当たらないことによる。藤村「江戸川乱歩」は萩原恭平がつけた綽名であり、筆名使用はない。東京外国語学校[編]『東京外国語学校一覧』(従大正 8 年至 9 年)露語学科に藤村義助がある。藤村義介[ママ]訳(1933)『伊太利紀行』春陽堂もある(神谷さん所蔵同書の序に初訳出 1922 と)が、別人と思われる。「アインシュタインの頌」(1922)「間島方面の宣伝戦一斑」(1921)の「江戸川乱歩」は、内容から『エポック』編集者野川孟(1895-?)と推定される。

1919 年萩原が藤村を「江戸川乱歩」と綽名し、1921 年野川が「江戸川乱歩」を使用、平井が筆名江戸川藍峯(c. 1920)を 1922 年乱歩と改めたと推理する。乱歩は逍遙や独歩と類似する。江戸川乱歩賞に「江戸川乱歩はいなかった—3 人の乱歩」を書けば注目される(!?)。

江戸川乱歩が 2 人(?)

神谷 明子

哲さんが、資料をいろいろ揃えて証明してくだる。数学の問題を解いていくようで、おもしろいと思った。本当の乱歩さんは、ペンネームで何も問題にならなかったのか? 活動時期が重ならないから、通ってしまったのかな? 銑三さんは、本人に聞いてみたかったけど、聞けなかった。他の人も確かめなかった。哲さん、難しいけど、面白い講義ありがとうございました。

辻村義介と藤村義助

神谷 磨利子

『ももんが』1963/6 の森銑三「今一人の江戸川乱歩」は、40 年以上前の『帝国民』編集時代の回想である。辻村義介訳「鐘樓の悪魔(アラン・ポー)」は『帝国民』1920/3 に「藤村義助」の名で載っている。萩原恭平はユーモアに富み他の塾生にもあだ名を付けている。電車江戸川終点から六丁の大道義塾まで酔って乱歩する、パオに心酔の青年に江戸川乱歩の名を付けた萩原のセンスに皆、興じたことだろう。しかし本人には不名誉な事であり、本人がその名を使ったとは思えない。鈴木さん指摘のように「藤村義助」を「辻村義介」としたのは記憶違いなのか、あえてしたのかは不明だ。

Allan Poe と [亜]乱歩

河橋 育実

江戸川乱歩は三重県出身の平井太郎だと思っていたので、他にも乱歩がいたという謎解きは哲さんらしく面白かったです。Dykes さんが Allan Poe をくつつけるのはスツキリないと言われていましたが、私は言葉遊びと思っていました。でも英語圏の人だと嫌なことなのだと教えてもらいました。

<原稿到着順。紙面の都合で編集しています。編集担当> 今後予定

55 : 2026/7/18(土)2 階展示コーナー : 村瀬典章さん解説「村上文庫展 三河国を探る」<8 月休会>

56 : 2026/9/19(土)三ツ松悟「小学唱歌を愛した森銑三」

57 : 2026/10/17(土) : 2 階展示コーナー : 村瀬典章さん解説「村上文庫展」

58 : 2026/11/21(土) : 神谷磨利子「森銑三と妻文子〜

『ゆづり葉 森文子遺稿』(1940)を通して」<12 月休会>

59 : 2027/1/16 : 募集中—お申し出ください。